

# ぴぴっと

ぴぴっと(PPT)とは...Paper (新聞) Practice (実践) Theory (理論) Philanthropy (社会貢献)

## 早春の日に

陽射しのぬくもりが心地よい日  
いつのまにか顔をのぞかせる小さな春

白い地が徐々に土の色へと変わり  
枯れた葉の中からみどりがめばえて  
ふと見ると傍らにはふきのとう

今年の春はいつもより少し早い  
2月のうちにやってきた雪解けの季節  
三寒四温...  
その中にあっても  
ふくらんでいく木々のつぼみ  
白い雪は水となって確実に春へと移ろう

暖かなぬくもりの中  
萌えいずる草木のように  
新たなエネルギーを胸に歩んで行こう

## 目次

- P1 味あらかると
- P2 子どもの心を耕す読書のすすめ
- P3 虹のひろば
- P4~6 子どもぴぴっとクラブ  
この1年をふりかえって  
16年度ぴぴっと研究会年間活動計画
- P7 まうすりいだより
- P8 新聞まめちしき・春だより・  
編集後記



## 味あらかると

ぴぴっと(PPT)研究会では今年度(平成十五年度)、独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」の助成を受け、計画的かつ意欲的に活動することができた。

平成十六年一月十七日(土)子育て支援基金シンポジウムが千代田放送会館(東京都千代田区)で開催され参加する機会に恵まれた。

「よみがえれ!子ども時代の幸せ 子どもと地域の新たな関係を構築する」をテーマにパネルディスカッションが行われた。パネリストには大林宣彦氏(映画作家)、中井貴恵氏(女優・エッセイスト)、西郷泰之氏(大正大学人間学部教授)、進士徹氏(NPO法人あぶくまエヌエネット代表)コイティネーターは飯野奈津子氏(NHK解説委員)の面々。

核家族化の進行などによる家族形態の変化や都市化の進展に伴い、地域での人間関係が希薄化するなか、子どもたちが社会とのコミュニケーション力を失い孤立する状況が生まれている。昨年七月には「次世代育成支援対策推進法」が公布施行されるなど、子育て問題が重要な社会的課題になっている。自分たちの今までの活動を振り返りながらパネリストお一人お一人のお話をうなずきながら拝聴した。これからの活動の参考になる示唆に富んだシンポジウムであった。次週二十四日(土)にはNHK教育テレビでこのシンポジウムのように詳しく放映され再確認しながら見ることもできた。

# 子どもの心を耕す読書のすすめ

「ことばは心を育てる」と言われます。今の社会では、大人も子どもも本を読まなくなったといわれ、テレビをはじめとして、話し言葉が主流になっているように思います。人間は「書かれていることばを読んで一人ひとりが理解し、考え、感動することで心が育てられる」ことを考えると、もう少し「書きことば」を大事にしなければならないと思う今日この頃です。

それにつけても、情報化社会といわれ、大人も子どもも意欲的に読書をするのが少なくなってきたことを考えると、本との出会いの機会を与えるためにも、成長に応じた読み聞かせが大事だと思います。

## 成長に応じた読み聞かせを大事に

子どもの成長にあわせて・・・  
読書意欲と読み聞かせ3

子どもの成長には個人差があり、子どもをよく理解しながら読み聞かせをすることが大切です。次のことを参考にして読み聞かせをして見ましょう。

- ① 乳幼児（1～2歳ぐらい）への読み聞かせは、お母さんの声が最高  
子どもと母親の心を結ぶ
- ② 幼児（3～5歳ぐらい）への読み聞かせは、楽しく  
見えないもの（感性 ことば）を育てる
- ③ 低学年（小学1～2年）への読み聞かせは、本好きに  
いろいろな本との出会いで本のおもしろさがわかる
- ④ 中学年（小学3～4年）への読み聞かせは、一人読みへの案内  
広がるものの見方や好奇心を読書で満足させる
- ⑤ 高学年（小学5～6年）への読み聞かせは、みんなが本と仲良しに  
心にしみる本の選択 一部の読み聞かせで読書への意欲がわく
- ⑥ 中学生への読み聞かせは、自己発見の助力を  
心に響く本の選択の助言で自己教育力の意識が育つ



### 家族で読んでみませんか

子どもたちは、どんなに読書が好きでも、深い読みはなかなかできないものです。親子・家族で同じ本を読み、話し合うことで、内容を深く、広く理解できるようになります。自分の生活の中で考えるようになるのです。そして、家族の会話から、子どもはいろいろな考え方や見方を学び取り、家族の心の交流も生まれてくるのです。

#### 「いつでも会える」

著者 菊田 まりこ  
発行所 学習研究社

#### 「ラブ・ユー・フォーエバー」

著者 ロバート・マンチ  
訳 乃木 りか  
発行所 岩波書店



# 虹の ひろば

沢内村せんだん保育所

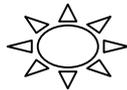
所長 佐藤 りき子



雪だるま 何を考えているのかな

## 雪あそび・そりあそび満喫の毎日

子どもたちは、雪に負けることなく毎日、友だちと競争したり共同したり「みんないっしょで楽しいね」を体感しています。



### 築山での雪あそび

2歳児 M は「あっちからも こっちからもシュートすべって（遊んだの！）」と築山の四方から登ってすべって楽しんだ様子を話したり「登る時すべったっけ！」と言いながら、何度も何度も挑戦してケツぞりをして遊んだことを知らせる。

自分の知っている言葉を駆使して表現する真剣な表情に成長が感じられる。

ジャンプできる子が「ジャンプする時は気合を入れなきゃだめだよ」とジャンプできない子を励ましたり、自分たちの基地を作ったりとどの子どもも雪遊びを楽しんでいます。



### 志賀来スキー場でのそりあそび （3歳児以上）

雪が輝くそりあそび日和（？）に恵まれて、ふだんより長いスロープは最高！肥料袋を利用した手作りそりを持って一目散に駆け登り滑り降りる4歳児。どんどん高い方へ向かい滑り降りるが、まっすぐには行かず、山の斜面の方へつつこみ雪ウサギ同然の4～5歳児。雪しぶきが顔にかかりヒリヒリして真っ赤になっても平気！弾丸のように疾走する3歳児もいれば、雪・寒さをこわがっていた3歳児も担任の誘導で、みごと何回も何回もすべれるようになったり、最後は合体して3～7人ぐらいが連なって、ジェットコースターのようにすべったりとスピードがつくのには快感を味わっている5歳児。まさしく、雪を楽しむたくましい「さわうちっ子」でした。



雪を楽しむ元気なさわうちっ子



# この一年をふりかえって

平成 14 年度にスタートした子どもびびっとクラブ。2 年目の今年は更なる内容の充実を目指し、メインの活動のほかに、毎回外部からの講師を招いてさまざまな角度から子どもたちの活動を展開してきました。写真とともにこの一年をふりかえりたいと思います。

## 第 1 回 (6 月 7 日)

発電所ゲーム

活動「これはどこだ」

活動「新聞でお花をつくろう」

発電所ゲームで緊張もほぐれた子ども達は、いきいきと「これはどこだ」に取り組みました。お母さんと一緒に考える子、友達とやる子、一人で黙々とやる子、様々です。



## 第 2 回 (7 月 5 日)

活動「切ってみよう、貼ってみよう」

講話「外国の新聞について知ろう」

子どもびびっとクラブとして初めての外部講師、北上市国際交流ルームチーフアドバイザーの薄衣景子さんから、外国の新聞のお話をいただきました。初めて見る外国の新聞に興味津々の子ども達。



### 第3回 (9月6日)

活動「ぴぴっとビンゴ」

講話「ガスのお話」

～ 業界新聞を見ながら～

新聞の用語を学習してから、ぴぴっとビンゴ。ものすごい盛り上がりでした。

業界新聞のお話は、いわて NPO-NET サポート常任理事の館邦雄さんがしてくださいました。ちょっと難しいお話にも、真剣に耳を傾けていました。



### 第4回 (11月15日)

活動「漢字をさがそう」・・・高学年

「カタカナをさがそう」・・・低学年

実習「新聞をつくろう」

活動に入る前には、「ぴぴっとパズル」で頭の体操。新聞から漢字やカタカナをさがすゲーム、子ども達はさがすことが大好きです。今回の外部講師はいわて NPO-NET サポート代表理事の高橋穂至さん。パソコンを駆使して、みんなの声をあっという間に一枚の新聞にしてしまい、びっくり。パソコンのすごさに感心していた子ども達の表情が印象的でした。



### 第5回 (1月31日)

活動「新聞かるた」・・・高学年

「新聞大捜査線」・・・低学年

活動「お茶に親しもう」



1年間の総まとめ的な活動で、どの子どもも熱中して取り組んでいました。

外部講師は、裏千家教授の大島禮子先生。しっとりとした着物姿にちょっぴり緊張した子ども達もほんのり甘いお菓子にうっとり。初めて抹茶をいただいて苦さにびっくりする子ども。最終回にふさわしい体験でした。

**出前講座・沢内村立猿橋小学校 (7月18日)**

活動 「カタカナをさがそう」

活動 「写真と見出し」



2・3・4年生の子ども達を対象に、初めて小学校での出前講座を開催しました。ふだん授業では余り使わない新聞での活動に、戸惑いながらも一生懸命取り組むかわいい子ども達の姿に、ぴぴっと一同感激した一日でした。



**出前講座・零石児童館 (3月6日)**

活動 「わたしも漫画家」



3年連続の出前講座でした。参加者は1・2・3年生各3人6年生1人の計10人。その中に3年連続の参加者が3人も。思わずにっこりして握手してしまいました。

新聞の「四コマまんが」は起承転結からなっていることを活用して漫画に挑戦、なかなかのできばえでした。



平成16年度 **ぴぴっと(PPT)研究会** 年間活動計画

項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子どもぴぴっとクラブ												
ぴよぴよぴぴっとクラブ												
新聞づくり講習会												
新聞を読んで今を語る会(まうすりい)												
会報「ぴぴっと」												
各種全国大会参加												
総 会												

# 大切なもの

まうすりいだよりの  
参加者寄稿のコーナーです

## 匿名希望

人と話すことが苦手な私。まして、たくさんの人の前で自分の思ったことを話すなんて…。絶対できない。第1回まうすりいでも、そのようなことを話したような気がする。まうすりいには子育てベテランの先輩がいらして、悩みにアドバイスをいただいたことがある。子育て真っ最中の私は、おおきな安心を得られた。

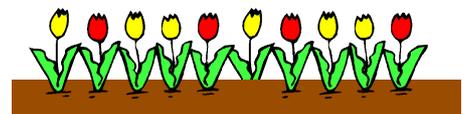
小学生の息子は、今年度、無欠席を目標にがんばっている。あと数日で、目標達成！

昨年度は頭痛が頻繁に起き、アトピーもひどくなり、30日ほど学校を休んだ。アトピーは顔に症状が出ていて、すれ違う人がどうしたんだろうというような顔で、息子の顔を覗き込むように見ていく。気づかないように、でも気持ちは複雑。そんなときは、お母さんが守るからね。息子の肩を抱き、何度心の中でつぶやいただろう。子どもにとっても、私にとっても辛かった時。朝、頭が痛い…と子どもが言うと、本当にそうなのか？いじめられていないか、学校行きたくなくてそう言うのではないか？私の心は複雑になる。じゃ、休もうか？

学年が変わり、「今年の目標は1年間休まないだよ。」と息子。薬が変わり、アトピーの症状も落ち着いていた。今年は休まないで、学校行けるだろうか…？「じゃ、まず1ヶ月がんばろっか。もう1ヶ月。」今まで順調だったわけではない。おなかが痛い！頭が痛い！そう訴える息子に、もう少し様子を見て良くなったら学校行こう。様子を見てるうちにお昼も過ぎたことがあった。すると、担任の先生から電話が。「どうですか？体調がいいようだったら今からでも学校連れてきてください。目標を達成して、自信をつけてやりたいんです。」ありがたかった。休むと言うことが、なんて簡単なんだろう。実感。

先日も腹痛で遅刻・早退を数日間くりかえしたが、なんとか欠席せずにすんだ。あと20日。なんとか目標達成！！のお祝いをやりたい。

まうすりいの自分の順番までの緊張は、どんな言葉でも表せないが、この頃は、話すことに少しだけ慣れたような気がする。時には尻切れトンボで終わってしまうこともある。自信がなくて、下を見て話していたが、これからは前を見て、話したいと思う。できるかなぁ～。



新聞を読んで今を語る会（通称まうすりい）は、「ちょっと知的な井戸端会議」を合言葉に複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。ぴぴっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成16年3月現在36回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。  
参加希望者はどなたでも大歓迎！！

## 桃の花

今年もお雛さまの季節がやって来た。1年ぶりのお目見えである。毎年の事とはいえ、2月に入ると「いつ出そうかな...」「今度の日曜日にしようかな...」「いやー、そろそろ出さないとマズいな...」などと、ついつい出すのが遅くなってしまふ。そういえばいつぞやは3月の声を聞いてから慌てて飾った覚えもあるぐらいなのだから、ここ数年の2月下旬にお出まし願うのは、私にすれば極めて順調ともいえるかもしれない。

そして、めでたく3月3日の雛祭りが何事も無く過ぎ、あとに残るのは、そうあとかたづけ.....。しかし今度は、「せっかく出したのだから、もう少し飾っておこう。」などと、箱にしまってしまうのが惜しくなってしまうのである。結局のところ、本来気を配るべき娘の将来のことなど全く顧みず、私の気のすむまでお雛さまには出て頂いているのが現実なのだ。いやー、はたして世間のお宅では、いったいどのようにしているのだろうか？やはり娘の将来を願いつつ、3日が過ぎれば速やかにかたづけているのだろうか？毎年思う素朴な疑問である。

ところで、そのわが家のお雛さまは、緋毛氈・金屏風の豪華絢爛7段飾りではなく、三人官女や五人囃子などもない「お内裏さま&お雛さま」

のベストカップルのみという実にシンプルなものなので、小道具にしても必要最小限の少しばかりあるだけである。しか



し、そんな少しの小道具でも配置や飾り付けについて毎年迷ってしまうのだから、少々情けない話には違いない。それぞれの位置関係はもとより、男雛が持つ「しゃく」のうらおもてなど、小さな「？」が発生する。そこで1年前のことを思い出しながらお雛さまの顔をしばしジーっと見てみると、あら不思議「！」そう、ひらめくのだ。今年も例年どおりチョットした頭の体操を楽しみながら、無事飾り終えた。

とにもかくにもせっかくお出まし頂いたお雛さまには、娘の健康をしっかりと願っておこう。そしてついでに、家族の分もさりげなく付け加えておこうと思う。  
(Y)

このコーナーは会員が最近感じたこと・出来事など交代で担当します。

## 編集後記

窓から差し込む光も暖かさを増し、心ときめく春ももうそこまで来ているようです。

さて、今年度も1年間の活動を終え、会報15号をお届けすることができました。また来年度も充実した活動をしていきたいと思っております。ご意見ご感想をお寄せください。

ぴぴっと(PPT)研究会

024-0012

岩手県北上市常盤台 1-14-12

Tel・Fax 0197-64-0758

E-mail: [agi@titan.ocn.ne.jp](mailto:agi@titan.ocn.ne.jp)

ホームページ [www.npo.2000.net/~ppt/](http://www.npo.2000.net/~ppt/)

## 新聞まめちしき

其の一五

名前だけのかわら版屋仲間組合

かわら版の影響を恐れた幕府は、延宝元(1673)年統制令を出し、政治向きと怪奇事を書くときは町奉行所へ届出を義務付けた。かわら版屋も仲間組合を作って自粛機関としていたが、お上のご意向伺いに手間取って発行が遅れ、面白おかしく書かれたもぐりのかわら版が横行した。そのため組合は、幕末まで有名無実にならなかつた。

(大陽ロケーションかわら版新聞「より」)